

※ 現時点での正誤表となります。新に訂正箇所が生じた場合は、ホームページ「出版物の案内」に掲載しますのでご確認下さい。

構造設計一級建築士資格取得講習 修了考査問題と解答例（平成 25～29 年度）
正誤表並びに補遺（2018. 4. 24）

【正誤表】

330 ページ 最下行

平成 29 年度 修了考査(構造設計)記述式 問題 1 【〔NO. 1〕の解答例】中⑧について、次のとおり解答例を訂正いたします。

(誤)

⑧ : ⑥の解説より

$$R=M/lw=Q1 \cdot 2H/lw=3200 \times 2 \times 3.5/6.0= \boxed{3,773} \text{ kN}$$

(正)

⑧ : ⑥の解説より

$$R=M/lw=Q1 \cdot 2H/lw=3200 \times 2 \times 3.5/6.0= \boxed{3,733} \text{ kN}$$

【補遺】

340 ページ 上 7 行目以降

平成 29 年度 修了考査(構造設計)記述式 問題 3 【〔NO. 2〕の解答例】中③について、解答例に採用した考え方について、次のとおり補足します。

解答例の作成にあたっては、問題中には「伝達鉛直応力最大値(中心軸上) $0.85 \times 40 \text{ kN/m}^2$ 」との記載があり、べた基礎の平均鉛直荷重度のみにピークファクターを掛けて中心軸上での最大応力度を算定するように示されていますが、実際には建物中心軸上には建物周囲の埋土から伝達された応力度も加わるのではないかと考えました。

そこで解答例では、この点を考慮して、べた基礎の平均鉛直荷重度が埋土重量を上回る分のみ、同様な 0.85 のピークファクターを用い、これと埋土重量分とを合算することで算定を行ったものです。

以上